

## 9. 管理運営・財務

### 【1】管理運営

## 9章 管理運営・財務

### 【1】管理運営

#### 1. 現状の説明

##### (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

本学の所属する千葉敬愛学園は、2007年4月基本構想計画委員会を通じて、15-20年先を見すえた学園の基本構想を提示した。この基本構想において建学の精神「敬天愛人」を、本学園の不動の教育理念として堅持することを確認し、社会に役立つ人材を育成することが本学園の責務であることを明確にしている。

この基本構想の下で、平成22年に中期的な管理・運営のための第四次中期経営計画(2010年～2014年)が策定され(資料9(1)-1)、教育改革を含む教育方針が定められた。この中期経営計画において、教育改革の一つとして国際学部「こども学科」を設置することと、経済学部「経営学科」の設置可能性を検討することが計画されている。また、学生確保の取り組みとともに、併行して入学定員と教員数の適正化を図ることが提示され、大学では、年度毎に事業計画を作成して実現に努めている。

本学の理念・目的を実現するための管理運営体制は、「学校法人千葉敬愛学園寄附行為」(資料9(1)-2)、「理事会に関する取扱い内規」(資料9(1)-3)、「理事の職務内規について」(資料9(1)-4)、「常務理事会規程」(資料9(1)-5)および「学校法人千葉敬愛学園事務組織規程」(資料9(1)-6)に定められ、本学においては「敬愛大学学則」(資料9(1)-7)に明確に定められている。理念・目的の実現に向けての方針は、次年度対策として、教学に関する事は学長が、財務については担当常務理事、人事労務については担当常務理事が方針説明し全学的な周知を図っている。

本学園における意思決定は、「学校法人千葉敬愛学園寄附行為」(資料9(1)-2)の規程により理事会が行い、理事長が本法人を代表している。学長は、1号理事として理事会のメンバーに加わり、教学と経営との一体化を図ることが求められ、他方で大学の経営最高責任者としての任を負い、両学部長と連携し両学部を統括する。具体的には、①学事全般の責任を負い、②予算・決算の立案・執行・管理、③入学定員の確保、④教員の採用・配置を監理し、⑤衛生管理、⑥施設・設備の整備・維持・管理に責任を負う。なお、2013年4月学長が理事長に選出されたため、現在は理事長が学長を兼務しており、①～⑥の運用は、それぞれの組織が果たすべき役割を明確にさせ、目標達成のために改革・改善をするよう指示している。

本学においては、学長の下に学部長、各センター長、教務部長、学生部長および研究所長が置かれ、管理・運営される。また、「敬愛大学学長補佐規程」(資料9(1)-8)により、学長は理事会の承認を得て、学長補佐を任命することができる。従い、上記の通り理事長と学長が兼務されることより、経済学部長が学長補佐に任命された。

本学における意思決定に関わる組織として、「敬愛大学学則」(資料9(1)-7)第34条に

## 9. 管理運営・財務

### 【1】管理運営

基づき、本学の重要事項を審議するために、大学評議会を置くこと定められている。並びに、同学則第 35 条に各学部の重要事項を審議するための教授会を置くことが定められている。大学評議会の審議事項は「敬愛大学評議会規程」（資料 9(1)－9）によって定められ、その実施については、理事会の議を経なければならない。教授会に関しては、「敬愛大学経済学部教授会規程」（資料 9(1)－10）「敬愛大学国際学部教授会規程」（資料 9(1)－11）によって定められている。

#### （2）明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

本学の管理運営の中心を担う学長の権限と責任については、「理事の職務内規について」（資料 9(1)－4）によって「大学長は、大学運営の最高責任者として、両学部長との連携を図り両学部を統括するものとする。」と定められている。学部長の権限と責任を定めた規程は特に設けられていないが、「敬愛大学学部長選考規程」（資料 9(1)－12）第 2 条において、「人格が高潔で、学識がすぐれ、学部の運営に識見を有し」が資格要件として定められている。学長補佐の職務については、「学長補佐規程」第 2 条により、「学長が権限を行使する業務のうち、学長が指示する特定の業務を行う」と規定されている。

学長、学部長の選考は規程に基づいて行われている。学長の選考については、2012 年 5 月に改正された「敬愛大学学長選考規程」（資料 9(1)－13）によって定められている。学長の任期は 3 年であり、再任は妨げられないが 2 期 6 年を超えることはできない。

学部長の選考は、「敬愛大学学部長選考規程」（資料 9(1)－12）によって定められており、各学部の専任教授の中から教授会構成員の 2 次にわたる投票に基づいて選出、任命される。学部長の任期は 2 年であり、再任は妨げられないが 2 期 4 年を超えることはできない。

学科長の選考は、「敬愛大学学科長に関する取扱い規程」（資料 9(1)－14）により、各学部長の推薦に基づき学長が指名し、理事長が学科長を任命することになっている。

教務部長、学生部長、研究所長、国際交流委員長、学部教務委員長、学部入試委員長の各役職者の選考については、「敬愛大学役職者選考規程」（資料 9(1)－15）によって定められ、メディアセンター長の選考については、「敬愛大学・千葉敬愛短期大学附属メディアセンター長選考規程」（資料 9(1)－16）によって定められている。

なお、本学では大学評議会の下、各学部教授会、自己点検・評価委員会、教務部委員会、学生部委員会、メディアセンター運営委員会、キャリアセンター運営委員会、国際交流委員会、総合地域研究所運営委員会、入試委員会等を設けている。大学評議会は、学則第 34 条に基づき、本学の運営を円滑に行うために置かれた審議機関であり、学長・各学部長・研究所長・各センター長・教務部長・学生部長および学部ごとに選出された専任教員各 2 名、事務局長をもって組織され、全学にわたる重要事項の審議・調整を行っている。

#### （3）大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

## 9. 管理運営・財務

### 【1】管理運営

本学の事務組織は、「千葉敬愛学園事務組織規程」(資料9(1)-6)に定めている。大学運営室は、総務業務、経理業務、施設管理、研究管理、行政対応、設置申請、各種式典運営および生涯学習を担当している。教務担当は修学支援室で授業、履修、成績およびテスト等を管理している。学生支援室は、学生の福利厚生関連の学生生活相談、履修相談、カウンセリング、健康管理、経済的支援、クラブ活動、OB会組織、保護者会組織の管理等各種学生サポートを担当している。学生生活相談、カウンセリング、健康管理には、それぞれに臨床心理士、看護師等の専門員を配置している。また、留学生生活相談には毎月、行政書士を配置している。メディアセンターは図書館と情報センター機能を管理しており、両機能の学生サービスを担当している。キャリアセンターは2008年度より外部からキャリアセンター長を招聘し、キャリア教育プログラムの確立と就職指導の在り方を全面改訂した。その結果としてキャリア教育関連の競争的資金(通称GP)は3回連続獲得し、現在も継続してキャリア教育の強化を図っている。入試および大学広報は入試広報センターが担当し、教職員全体への募集活動応援要請、入学案内制作、募集用ホームページ制作および高校訪問、出張ガイダンス等を実施している。

新たな展開としては2012年度より、全学的に履修登録、授業出席管理、成績管理、授業評価、シラバス配信、キャリア教育進捗管理、就職活動管理、内定状況管理および双方向の事務連絡がとれるKCNシステムを導入した。また、時代を反映した学生のメンタルに関する問題に対応するため、24時間健康相談ホットラインを外部企業と提携し開設した。キャリア教育については2010年度より本格的に導入し、効果は出ている。

#### (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

2009年4月に横断的な組織体系を築くとともに業務面での能率向上、各部門間相互の理解と連携を考慮した事務組織改革を実施した。また、事務組織の再点検を図るべく職員の業務についての意識調査(業務内容、上司との連携、担当業務の問題点、改善点等)を2009年8月に実施した。さらに、第四次中期経営計画(2010年~2014年)(資料9(1)-1)において人事考課制度の導入があげられ、事務職員給与規程改定とともに検討を行い、「千葉敬愛学園事務職員人事規則(案)」(資料9(1)-17)、「事務職員人事考課規則(案)」(資料9(1)-18)、「事務職員自己申告規則(案)」(資料9(1)-19)を整備し、2014年度からの導入を目指して2013年11月に各部門への説明を行った。

事務職員の「教育研究に関する環境・条件の整備」および「学生への教育支援」に関する能力・資質の向上と業務の効率化を図るため、「敬愛大学・千葉敬愛短期大学スタッフ・ディベロップメント(SD)規程」(資料9(1)-20)を整備しており、本学では毎年夏季休業時を利用して教職員合同研修会を実施している(資料9(1)-21)。

過去3年間の研修テーマは、2010年度全体会では「人を育てる組織づくり」、分科会においては「敬愛大学の留学生教育の現状と問題点」「中退防止対策の現状と課題」、2011年度全体会では「これからの私学経営と安全管理」、分科会においては「大学生の学生文化とキ

## 9. 管理運営・財務

### 【1】管理運営

キャンパスライフ」、2012年度全体会では「生徒の進路選択を真に応援する情報力とは」、分科会においては「大学改革の動向と大学改革実行プラン」の研修を実施し、職員の資質向上を図っている。

また、業務の専門性に応じて外部機関が主催する各種研修会・セミナー等に、各部署の業務に特化した知識習得のため積極的に事務職員を参加させている。

## 2. 点検・評価

### ●基準の充足状況

本学の管理運営は、明文化された諸規程に基づき適切に行われており、概ね同基準は充足している。大学業務を円滑かつ効果的に行うため、今後も更なる組織改革が必要と考えている。

#### ①効果が上がっている事項

・大学評議会を大学の重要事項を審議・決定する機関であると再確認し、幹部教職員の意思統一を図ることができた。学生に対しては、新システム導入により個々人の成長を一元管理することが可能となり、中退防止にも効果は出ている。キャリア教育も就職希望率、就職率ともに向上し、効果は出ている。

#### ②改善すべき事項

・事務職員給与規程改定等に関する取組については、大学職員向け説明会を開催したが、職能給制度と資格等級制度および評価システム等の導入について、予定より遅れ気味となっている。

・キャンパス統合後に事務組織の統廃合はなされたが、時代の変化に後れが生じてきている。IR 機能強化、それぞれの部署で実施している地域連携、アクティブラーニング企画、生涯学習強化、大学広報等を考えた組織体とは言い難い。

・SDは実施しているが、実施することが目的と化している。人材開発、組織開発、階層別教育制度の確立、という視点で見ると、SD研修効果はあがっていない。

## 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

・大学評議会のあるべき姿をより明確化し、質の高い審議、決定事項の周知を継続強化していく。学生個々人の掌握については新システムを有効活用し、ゼミ教員の学生個人指導用ツールとして有効活用し、推進していく。キャリア教育では、PBL型授業を取り入れ、就職ナビだけに頼らない就職指導のあり方を推進している。

#### ②改善すべき事項

・導入が遅れている人事考課制度と職能給制度への移行を速やかに推進する。試行後、問題点、矛盾点の発生が予測されるが、毎年、精度を高めるための改善策をとっていく。

・2014年度より法人組織と大学事務組織を部分的に統合・移行させる。戦略部門を法人に

## 9. 管理運営・財務

### 【1】管理運営

組織し、学納金管理等の業務を法人経理部門に移行させ一元管理とする。地域連携等に関しては駅前にサテライト教室を新設し、生涯学習とともに強化を図る。

・職能給制度の導入を機に、SD 研修のあり方を再検討する。年度目標自己申告制度と階層別教育の充実化を図り、職員の資質向上を目指す。

## 4. 根拠資料

- 9(1)-1 第四次中期経営計画（2010年～2014年）（既出 資料7-2）
- 9(1)-2 学校法人千葉敬愛学園寄附行為
- 9(1)-3 理事会等に関する取扱い内規
- 9(1)-4 理事の職務内規について
- 9(1)-5 常務理事会規程
- 9(1)-6 千葉敬愛学園事務組織規程
- 9(1)-7 敬愛大学学則（既出 資料1-1）
- 9(1)-8 敬愛大学学長補佐規程
- 9(1)-9 敬愛大学評議会規程（既出 資料3-4）
- 9(1)-10 敬愛大学経済学部教授会規程（既出 資料3-5）
- 9(1)-11 敬愛大学国際学部教授会規程（既出 資料3-6）
- 9(1)-12 敬愛大学学部長選考規程
- 9(1)-13 敬愛大学学長選考規程
- 9(1)-14 敬愛大学学科長に関する取扱い規程
- 9(1)-15 敬愛大学役職者選考規程
- 9(1)-16 敬愛大学・千葉敬愛短期大学附属メディアセンター長選考規程
- 9(1)-17 千葉敬愛学園事務職員人事規則（案）
- 9(1)-18 事務職員人事考課規則（案）
- 9(1)-19 事務職員自己申告規則（案）
- 9(1)-20 敬愛大学・千葉敬愛短期大学スタッフ・ディベロップメント（SD）規程
- 9(1)-21 平成25年度千葉敬愛学園・長戸路学園教職員合同研修会報告書
- 9(1)-22 学校法人千葉敬愛学園理事・監事・評議員名簿（平成25年8月1日現在）
- 9(1)-23 学校法人千葉敬愛学園 平成24年度事業報告書

9. 管理運営・財務

【1】管理運営